

ダグール語の条件副動詞

Дагуур хэлний болзох нөхцөл

山田洋平

1. 発表のアウトライン

ダグール語の条件副動詞 -AAs「～すれば」には、所属の形式の付与が義務的である。これは主節と従属節の主語が同一である（再帰）か異なるかを示す指示転換がマークされているものであると言える。こうした義務的な指示転換は他のモンゴル諸語には類を見ず、また周囲のツングース諸語（南グループ）にも見られない。

2. モンゴル語とダグール語の所属の形式

モンゴル語の名詞と所属

nom-oo

book-ref 「(自分の)本」

nom

book 「本」

nom=nj

book=3sg 「(その)本」

ダグール語の名詞と所属

bitg-ee

book-ref 「(自分の)本」

biteg

book 「(不定の)本」

bitg=ini

book=3sg 「(彼の)本」

モンゴル語の副動詞と所属

ir-tl-ee

to.come-lim-ref 「(自分が)来るまで」

ir-tel

to.come-lim 「来るまで」

ir-tel=nj

to.come-lim=3sg 「(彼が)来るまで」

ダグール語の副動詞と所属

ir-ees-ee

to.come-cond-ref 「(自分が)来たら」

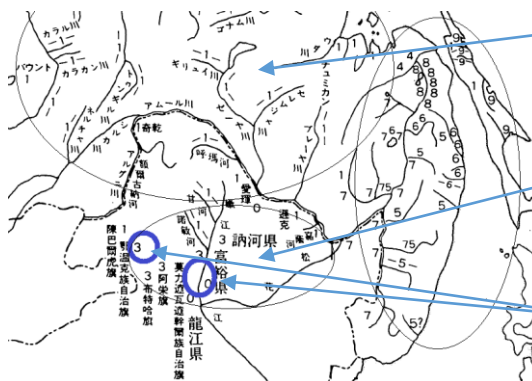
**ir-ees*

to.come-cond

ir-ees=ini

to.come-cond=3sg 「(他の人が)来たら」

3. ダグール語と近隣ツングース諸語の指示転換



☆北グループ

エウエンキー語の条件形

-mi (同主語) -rAki- (異主語)

☆南グループ

ソロン語の条件形

-kki (同主語/異主語)

☆ダグール語

(Baek 2015 より。地図は池上 1989 による)

Baek Sangyub. 2015. Conditional forms in Tungusic from the perspective of areal linguistics.

Proceedings of the 12th Seoul International Altaic Conference. 103-118

池上二良. 1989. 「ツングース諸語」 亀井孝・河野六郎・千野栄一編『言語学大辞典 第2巻 世界言語編(中)』1058-1083. 東京: 三省堂